

広島芸術学会活動報告

二〇二一年七月一日～二〇二二年六月三十日

米 門 公 子

▼平成二十三年七月二日（土）

会報第百十三号を発行。第二十五回総会・大会のスケジュール、発表者のレジユメ、斎藤稔「瑞宝中綬賞」受賞のお知らせ、原田佳子の寄稿文「ビューイングルーム―魅力的な現代アートの別世界―」、袁葉のエッセイ「パンダの国から大キリン」（前編）、西原大輔の第九十五回例会報告を掲載した。

▼平成二十三年七月二十四日（日）

第二十五回総会・大会を広島県立美術館で開催。金田会長の開会挨拶の後、青木副会長が議長に選出された。平成二十二年度事業報告を倉橋委員、決算報告を大橋啓一事務局長、監査報告を竹澤委員が行った。続いて二十三年度事業計画と予算が発表され、承認された。大会では三つの研究発表が行われた。①広島大学大学院博士課程後期、廖偉汝の「伝統工芸産業における芸術家の創造性の変容について―石川伝統工芸イノベータ養成を一つの事例研究として―」②エリザベト音楽大学博士後期課程修了、佐々木悠の「日本におけるオルガン文化（楽器、作品、オルガン界）―千九百四十五年以降を中心に―」③バルセロナ自治大学大学院生、吉本由江の「アメリカ・ノートンの自伝的小説と日本」。続いて宇都宮美術館学芸課長、浜

崎礼二が「美術館の危機管理―東日本大震災を踏まえて―」と題した報告を行った。

▼平成二十三年十月七日（金）

会報第百十四号を発行。巻頭言は吉本由江の「アントニオ・ロペス展を訪れて」。第二十五回大会の報告は、①廖偉汝の発表を大山智徳、②佐々木悠の発表を大迫知佳子、③吉本由江の発表を大山智徳が書いた。浜崎礼二の特別報告については谷藤史彦がまとめた。最終頁に第九十六回例会案内を掲載した。

▼平成二十三年十一月五日（土）

第九十六回例会は広島市内の二つのギャラリーを見学。最初に中区西白鳥町の「大野ギャラリー」、続いて中区千田町の「ヒロセコレクション」を訪れた。

▼平成二十三年十一月三十日（水）

会報第百十五号を発行。巻頭言は広島県立美術館、越智裕二郎館長の「ZEROグループと具体」。第九十六回例会の報告は永井明生が執筆した。袁葉がエッセイ「パンダの国から大キリン」（後編）

を寄せた。最終頁に第九十七回例会案内を載せた。

▼平成二十三年十二月十七日(土)

第九十七回例会をひろしま美術研究所で開催。研究発表①は日本学術振興会特別研究員、中野逸雄の「十九世紀における自然科学の作品化と崇高——アール・ダールベルト・シュティフターの文学——」②はふくやま美術館学芸員、平泉千枝の「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの夜の絵画について——その闇の意味——」。例会後、懇親会を開いた。

▼平成二十四年二月二日(木)

会報第百十六号を発行。巻頭言は釜山科学技術大学校専任講師、長迫英倫の「韓国で漢字について考える」。第九十七回例会報告は、①中野逸雄の発表を嶋屋節子、②平泉千枝の発表を平泉自身が書いた。インフォメーションで、三月に開催する芸術展示の案内、最終頁に第九十八回例会案内を掲載した。

▼平成二十四年二月十八日(土)

第九十八回例会を広島県立美術館講堂で開催。研究発表①は神戸大学大学院芸術学専修、植松篤の「二つの展覧会から見た具体美術協会の評価——日本国際美術展・現代日本美術展への出品を通して——」②は広島大学大学院総合科学研究科、鎌田勇の「感情の現象学——感性と理性の2元論を越えて——」。例会後、懇親会を開いた。

▼平成二十四年三月二十日(火) ～三月二十五日(日)

広島県立美術館県民ギャラリーで、芸術展示「制作と思考」第八回展を開催。テーマは「ホット・ジャパン——粹と野暮——」。出品は作品二十七点および三味線パオーマンス一件の計二十八件。会期中の総入場者数は七百五十一名だった。

▼平成二十四年五月六日(日)

会報第百十七号を発行。巻頭言は興國管理學院専任講師、亀井克朗の「重層的な文化の地層——台湾に移り住んで、旅して」。第九十八回例会での研究発表の報告は、①植松篤の発表を谷藤史彦、②鎌田勇の発表を鎌田自身が書いた。ほかには、袁葉が寄稿したエッセイ「桜の国Ⅱ」、芸術学関連学会連合第七回公開シンポジウム「地・人・芸術——〈芸術と地域〉を問う——」の案内を掲載。最終頁に第九十九回例会案内を載せた。

▼平成二十四年五月二十六日(土)

第九十九回例会は「庵治石のふるさとを訪ねて」と題した野外例会。香川県高松市にある「イサム・ノグチ庭園美術館」「石の民俗資料館」「ストーンミュージアム」「高松市美術館」を訪れた。

▼平成二十四年六月十六日(土)

芸術学関連学会連合主催の第七回公開シンポジウムが、仙台市博物館で開催され、金田会長が提案者として出席。趣旨説明を行うとともに、ディスカッションのコーディネーターおよびシンポジウムのオーガナイザーを務めた。

▼平成二十四年六月二十九日(金)

会報第百十八号を発行。第二十六回総会・大会のスケジュール、研究発表者、シンポジウム参加者のレジメなどを掲載。第九十九回例会報告を近多恵美が書いた。

(文中、敬称は略させていただきます)

《平成二十四年六月三十日現在、法人会員二法人、個人会員百七十二名(特別会員二名、一般会員百四十七名、学生会員二十三名)》